

## ひらがな文字を教えるわけ

ことばを覚えるのは、親と子どもが豊かな共感関係で結ばれていることが必要です。子どものことばの発達が遅れているのは、子どもの側か親の側かそれとも両方に何らかの原因があり、今まで共感関係を結べないでいたと考えられます。ひらがな文字全部を一度に覚えるのは難しいですが、くり返し教えることで、少しずつ覚えていけます。子ども自身ができたという自信がもてます。この経験は次の課題に取り組んでいく原動力になります。親にとっても、どう関わっていいのか分からなかった子どもに、ひらがな文字を教えることで、子どもへのかかわり方を学ぶことができます。

親が子どもにひらがな文字を教え、子どもが習得していくことで、親と子どもの1対1の関係、共感関係を結びやすいのではないかと考えるからです。

## あ行「あ」「い」「う」「え」「お」とか行「か」「き」「く」「け」「こ」をあわせてことば集めをすると

- 1音の名前のことばだと 「え」「か」「き」「け」
  - 2音だと「いえ」「かき」「かい」「きく」「いか」「いけ」「えき」「おけ」「こい」
  - 3音だと「おかき」「くうき」「きかい」
  - 4音だと「おけいこ」
  - 動きのことばだと「あう」「いく」「おく」「うく」「かう」「きく」「かく」
  - 色のことばで「あか」「あお」「き」
  - その他に「おおきい」などがあります。
- このことばを組み合わせると、2語の語連鎖ができます。

## あ行からか行のひらがなでできることば

- ・色の名前  
あお、あか、き、
- ・名前のことば  
か、き、こい、かき、かい、いか、きく、いえ、うお、きかい、かお
- ・時間のことば  
あき、
- ・場所のことば  
いけ、えき、
- ・動きのことば  
いく、きく、うく、おく
- ・「あかい」「あおい」「おおきい」となまえのことばを組み合わせて2語文にすると  
あかい いえ、あおい いえ、あかい かき、あおい かき、あかい かお、あおい かお、あかい こい、あかい きく、おおきい え・か・き・こ、おおきい かお、おおきい きく、おおきい えき、おおきい いけ、おおきい こい・うお、おおきい かい、おおきい いえ、おおきい かき、おおきい きかい  
などのことばができる。

## あ行からか行のひらがなでできることば

・ことばあつめから

ち、て、と、たこ、こたつ、とけい、けいと・・・

・「と」が出てくることで、ものを並べることができます。

たこと いか

おとうさんと おかあさん

たかい かきと かたい かき

あたたかい あさと あつい あさ

あつい いたと うすい いた

・反対のことばもできます。

ちいさい たき、て、いけ、とけい、と

おおきい たき(うつくしい たき)

ちかい えき

とおい えき

・舌の動きを確かめることもできます。

かたたたき

こけた おとうと

たいこ たたいて とことこ

## あ行からな行のひらがなでできることば

ここまでひらがな文字を読んでくるとずいぶんことばがつながってきます。

たのしい うた

うたうと たのしい

すきな さかな

ちいさい さかなと おおきい さかな

「おおきい」「ちいさい」が弁別できるか確かめてみます。

同じものの絵カードを比べて「おおきい」「ちいさい」というように。

ちがうものの絵カードを並べて、イメージで弁別できるか確かめてみます。

ねっこねこ

猫の絵カードを見せて、「これは何？」と聞いてみます。

「ねこ」と答えたあと「っ」を見せて、猫の絵カードの下におきます。

「っ」がこの間に入ると、ちがうものになるよ。なんだろうね。

と聞いてみたら、クイズっぽくていいかもしれません。

・～の

おとうとの なす

しかの つの

・～に～

ちいさな えきに いく

おおきな いえに いった

かいに いこう

時制の表現にもつなげそうです

・～のなかに

つくえの なか

- ・ ~のうえに  
つくえの うえ  
・ ~のした  
つくえの した

位置を表すことばの理解に使いそうです。  
机の上、下、中にりんごがおいてある絵カードを見せて、  
りんごはどこにありますか？  
と問い、絵に対応した文字カードを見せ読ますといい。

### あ行からは行のひらがなでできることば

は行のひらがなを、連続させると

はははは ひひひひ ひひひひひひ ひひひひひひ ひひひひひひ  
と笑い声になります。

母音と続けると

あっはっはっは いっひっひっひ うっふっふっふ えっへっへっへ おっほっほっほ  
は行の連続とは少しちがう笑い声になります。

反対のことばで、

「ふかい あな」に対して「あさい あな」  
せが「ひくい」に対してせが「たかい」  
「ふとい あし」に対して「ほそい あし」  
「は」「へ」をつかうことで

あなは ふかい。

いけは ふかい。

あしは ふとい。

あしは ほそい。

はなは あかい。

ふねは あおい。

「なにが どんناد」という文ができます。

単語カードに書いて読みます。

読んだあと、

「はなは何色ですか」

「ふねは何色ですか」

と書いてある順番に問います。

「あかいのは何ですか」

「あおいのは何ですか」

と書いてあるのとは逆に問います。

こんな文もできます

おとこの こは えきへ いく。

おとこの こは いえに かえった。

### あ行からま行のひらがなでできることば

みみ め くち はな くび て あし あたま などのからだの部位のなまえがで  
きます。

絵カードと名前カードとひらがな文字カードを使い、対応させていきます。

1回目 顔の絵カード、からだの絵カードを子どもに見せる。

「ここはなんて言うかな？」 と指差し、聞いてみる。

答えが返ってきたら、名前カードを見せて、読んでみる。

子どもが、もう一度名前カードを見て、読む。

2回目 名前カードをばらばらにおいて、部位を指差してみる。

子どもが文字カードを選び、読む。

3回目 ひらがな文字をばらばらにおいて、部位と文字カードを指差してみる。

子どもが文字カードを見ながら、ひらがな文字を一字ずつとりだし、並べて、読む。

4回目 最後に部位を指差してみる。 子どもがひらがな文字を一字ずつとりだし、並べて読む。

2語文だと あまい すいか つめたい あいすくりいむ(アイスクリーム) うまい もも

「 も 」を使うと たこも いかも うみに います。 みか(ん)も かきも くだものです。

みかんも ももも だいすきな くだものです。 など多語文ができます。

ひらがな文字を読めるように取り組むときに、行ごとに読めたあとに、列ごとに読むことを目当てにすることがあります。

### あ列でできることば

あ列のひらがな文字を並べて、ことば集めをします。

一字では か、は、

二字では かさ、さか、かた、たか、たな、なた、はな、はら、わら、  
かま、さら、かわ、

三字では、からだ、さらだ、

四字では、からから、ぱかぱか、

と並べて、読むように指導します。